

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成20年5月15日(2008.5.15)

【公表番号】特表2007-530193(P2007-530193A)  
 【公表日】平成19年11月1日(2007.11.1)  
 【年通号数】公開・登録公報2007-042  
 【出願番号】特願2007-505479(P2007-505479)  
 【国際特許分類】

A 6 1 F 2/44 (2006.01)

A 6 1 B 17/58 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/44

A 6 1 B 17/58 3 1 0

【手続補正書】  
 【提出日】平成20年3月27日(2008.3.27)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

2 つの近接する椎体 ( 1 、 2 ) の一方に接続される 2 つのカバープレート ( 3 、 4 ) と、上記カバープレート ( 3 、 4 ) から分離しており、当該カバープレート ( 3 、 4 ) の少なくとも 1 つを固定するものであって上記椎体 ( 1 、 2 ) の腹側表面に締め付け固定される固定プレート ( 1 2 ) と、上記カバープレートの一つと関節を形成するプロテーゼコア部 ( 5 ) と、を備える頸椎プロテーゼにおいて、

上記カバープレート ( 3 、 4 ) に、背側方向に向けられた歯止め用表面 ( 1 1 ) が設けられ、

上記歯止め用表面 ( 1 1 ) は、近接する椎体 ( 1 、 2 ) に対向して配置され、上記カバープレートの少なくとも 1 つの腹側端部に突出して形成されたフランジの後面により形成されることを特徴とする頸椎プロテーゼ。

【請求項 2】

上記固定プレートが、生体分解可能であることを特徴とする請求項 1 に記載の頸椎プロテーゼ。

【請求項 3】

上記固定プレートが円形状の円板であることを特徴とする請求項 1 に記載の頸椎プロテーゼ。

【請求項 4】

上記固定プレートが円形状の円板であることを特徴とする請求項 2 に記載の頸椎プロテーゼ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 1 7  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 1 7】

図 3 に示すような工具を使用することにより、さらに強固な位置決めを達成することが

できる。ドリルを案内するための骨ホール 21 を備えるドリルゲージ 20 が、2 つのアーム 22、23 を具備する鉗子工具に配置され、2 つのアーム 22、23 は、不図示の手段により、矢印 18 の方向に互いに向かって移動することができ、おおまかなポジションに固定することができる。互いに対向するフランクにおいて、アーム 22、23 は、突出部 24、25 を備え、突出部 24、25 は、プロテーゼの対応する凹部 26、27 に適合する形状を有している。図示した具体例においては、これらの突出部は、孔 26 に対応するピン 24、及び、スリット 27 に対応するブレード 25 である。図 1 に示すように、プロテーゼ 3、4、5 が椎間腔に挿入された後、上記工具が、構成部材 24 ~ 27 の補助を受けて、プロテーゼに取り付けられ、そしてそこで調整される。現在、ドリルゲージ 20 の孔 21 は、固定プレートの締め付け用スクリー 13 のための孔が設けられることが意図されたポジションにおける軸と同じ軸上に配置されている。